

式 辞

寒さも和らぎ、白杵の地にも希望をもたらず春の季節が到来しました。木々の新芽が鮮やかに平成二十九年大分県立白杵高等学校入学式を挙げてくださることは、私たち学校にとりまして大きな喜びであります。

皆さんの入学を教職員、在校生一同心から歓迎します。そして、入学のために様々な面で皆さんの力を添えさせて頂きました保護者の皆様方、その他関係の皆様方にはこれまでのご支援に感謝申し上げます。

さて、入学された皆さんは、将来の夢の実現のために本校の扉を開きました。いま、私を見つめるとさぐさぐと眼差しから入試を通して成長した皆さんの姿が覗えます。今、この気持ちを大切に、本校での学びから更に成長して貰いたいと考えています。本校の校訓「誠実、勤勉」をしつかりと心に刻み、将来はグローバルな視点で、地域や国際社会を舞台に活躍していくことを期待しています。本校にはそのための力を育成するに十分な環境が整っています。今春の大学入試では、国公立大学に六十三名の合格をはじめ、私立大学などに多数合格し、それぞれの志望を達成しました。本校では、熱心かつ経験豊富な先生方が皆さんの学習指導を支えます。また、部活動では県上位での健闘が見られ、学習との両立に苦勞しながらも、人間的な成長が図られています。さらに、白杵高校の伝統の学校行事や「うすきいきいきプラン」に象徴される地域連携の発表会など、本校ならではの活動が、思考力や表現力を育む魅力ある学びの場となっています。

特に、本年度は節目となる創立一二〇周年を迎えます。その伝統から、県南部の拠点校として進化を遂げ、存在感は輝きを増していると自負しています。新入生の皆さんも、先輩方が培った伝統を感じながら、それぞれの目標に向かい努力を継続して欲しいと思います。

さて、本校の生活を始めるにあたり、私の方から三つのことをお伝えします。

一つ目は、「志を高くもつ」ということです。志を高く掲げれば、人はそれに向かい努力をします。たとえ壁にぶつかっても、諦めず前に進もうとすることから成長の機会をつかむことができます。世界の舞台で活躍しているサッカーの本田圭佑選手は、「挫折は過程、最後に成功すれば挫折は過程に変わる。だから成功するまで諦めないだけ」と、志を持って前に進むことの大切さを伝えていています。現実には妥協せず志を持つことは、急激な早さで変化する現代社会において、生きぬく力となります。日々の学習活動や部活動、学校行事などに夢やビジョンを持ち、精一杯の努力を続けることで、夢は必ず実現します。

二つ目は、「絆を大切にすること」ということです。皆さんは縁あって白杵高校の新入生として今、ここにいます。今日から二〇〇名の絆で結ばれた一年生の生活がスタートします。さらに、四〇〇名程の上級生、教職員が皆さんの入学を待っています。人が成長するには、互いのコミュニケーションや、他者との協力が必要です。そして、絆を高め合うことで切磋琢磨し合える環境が成立します。「頑張るみんながいるから、自分も頑張る」そのような深い信頼が感じられる白杵高校での絆づくりを目指して下さい。

三つ目は、「誇りをもつ」ということです。誇りある高校生の姿とは、思いやりの気持ちを持った挨拶のできる生徒、集団の一員として責任ある行動のとれる生徒、常に直向きに取り組む生徒だと考えます。高校時代は社会に出て行くために必要な知識、思考力を身につける大事な時期であり、知・徳・体のバランスのとれた人となるには、常に自身の行動に誇りを持つことが大切です。高校生としての誇りある姿が、学校の文化となり伝統として引き継がれていきます。

そして、白杵高校では、様々なことに挑戦できる、感謝の心を有した人材の育成を図っています。皆さんはこのことを意識して充実した学校生活を送られることを切に期待します。

保護者の皆様におかれましては、本日、大切なお子様をお預かりさせていただきました。私達教職員はお子様の成長に向け全力を尽くす所存ですが、そのためには保護者の皆様と学校が同じ方向を向いて子どもたちとの関わりを深めることが不可欠です。本校の教育方針にご理解賜り、PTA活動などに積極的にご参加いただきたくご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、ご多用なかご臨席を賜りましたご来賓の皆様におかれましては、本校の今後の更なる発展に向けて、より一層のご指導、ご支援をお願いいたしまして、入学式の式辞といたします。

平成二十九年四月十一日
大分県立白杵高等学校
校長 藤永 直也